

Ⅲ 耕地の利用状況

1 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成25年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は164万6,000ha（青刈り面積を含む。）で、前年並みとなった。水稲以外の作物のみの作付田は41万6,700haで、前年に比べて2,900ha（1%）減少した。また、夏期全期不作付地は26万2,300haで、前年に比べて7,100ha（3%）減少した。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は前年に比べて0.4ポイント増加して70.8%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は前年に比べて0.1ポイント低下して17.9%、夏期全期不作付地の割合は前年に比べて0.3ポイント低下して11.3%となった。（表16）

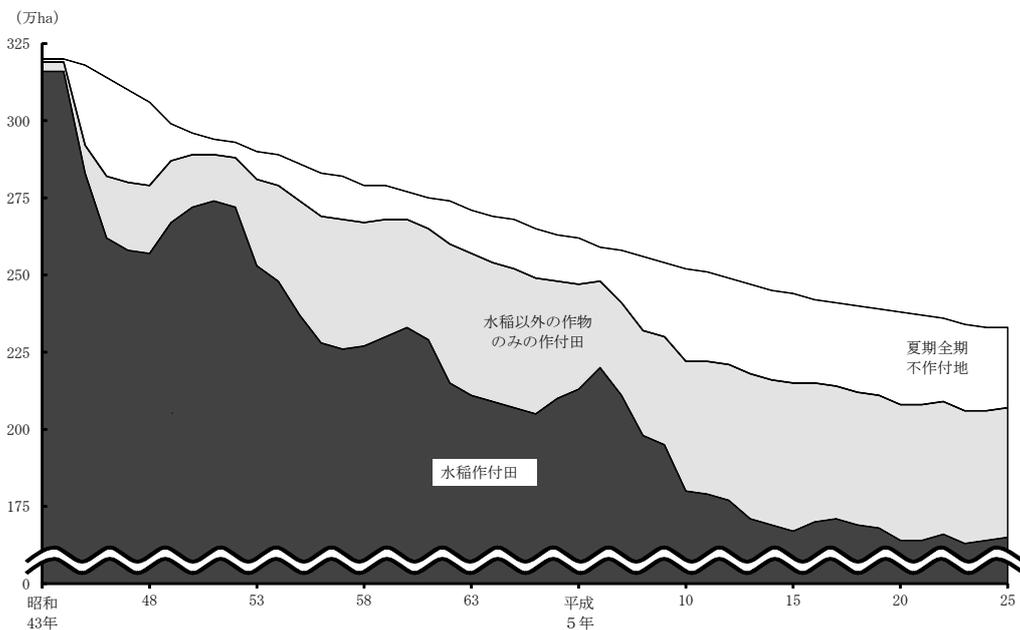
表16 平成25年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,326,000	△ 3,000	100	100.0
水 稲 作 付 田	1,646,000	6,000	100	70.8
水稲以外の作物のみの作付田	416,700	△ 2,900	99	17.9
夏期全期不作付地	262,300	△ 7,100	97	11.3

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地については増加傾向で推移している。

（図12）

図12 夏期における田本地の利用状況の推移



2 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(1) 平成25年における田の農作物作付(栽培)延べ面積は228万haで、前年と同じであった。

(表17)

田の耕地利用率は92.5%で、前年に比べて0.2ポイント上昇した。(表17)

(2) 畑の農作物作付(栽培)延べ面積は188万7,000haで、前年に比べて1万4,000ha(1%)

減少した。(表17)

これは、飼肥料作物、野菜、果樹等の作付(栽培)面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は91.1%で、前年に比べて0.3ポイント低下した。(表17)

(3) この結果、田畑計の耕地利用率は91.8%で、前年並みとなった。(表17)

表17 平成25年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		作付(栽培) 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付(栽培)延べ面積	4,167,000	△ 14,000	100	91.8	2,280,000	0	100	1,887,000	△ 14,000	99
水陸稲(子実用)	1,599,000	18,000	101	35.2	1,597,000	18,000	101	1,860	△ 380	83
麦類(子実用)	269,600	△ 100	100	5.9	166,700	△ 1,700	99	103,000	1,700	102
かんしょ	38,600	△ 200	99	0.9	2,910	△ 100	97	35,600	△ 200	99
雑穀(乾燥子実用)	62,900	300	100	1.4	40,100	△ 400	99	22,800	700	103
豆類(乾燥子実用)	178,500	△ 1,700	99	3.9	114,800	△ 2,900	98	63,600	1,100	102
野 菜	533,100	△ 6,000	99	11.8	142,200	△ 1,700	99	390,900	△ 4,300	99
果 樹	237,000	△ 3,300	99	5.2	-	-	nc	237,000	△ 3,300	99
工芸農作物	152,700	△ 2,400	98	3.4	6,630	△ 120	98	146,100	△ 2,200	99
飼肥料作物	1,012,000	△ 17,000	98	22.3	183,100	△ 10,700	94	828,600	△ 6,100	99
その他作物	84,300	△ 1,300	98	1.9	26,600	△ 100	100	57,700	△ 1,200	98
耕 地 面 積	4,537,000	△ 12,000	100	nc	2,465,000	△ 4,000	100	2,072,000	△ 8,000	100
耕 地 利 用 率	91.8%	△0.1ポイント	nc	nc	92.5%	0.2ポイント	nc	91.1%	△0.3ポイント	nc

注：耕地利用率とは、耕地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率}(\%) = \frac{\text{作付(栽培)延べ面積}}{\text{耕地面積(7月15日現在)}} \times 100$$

(4) 作付(栽培)延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少に加え45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により、田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移してきた。60年以降は麦類に加え豆類等も減少し、平成10年からは米の需給調整対策の推進等から麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している。

(図13)

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。平成11年に昭和59年以来15年ぶりに上昇して以降、ほぼ減少傾向で推移してきたが、平成22年は10年ぶりに上昇した。(図13)

図13 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移

